

文京学院大学・川越研究室の伝統工芸活性化プロジェクトが 全国10万部発行の高校「公共」最新資料集に掲載

～生成AIで江戸小紋の技術を継承。伝統工芸DXによる若者の社会参加事例として～

文京学院大学(学長:福井 勉)は、経営学部の川越 仁恵教授による伝統工芸活性化プロジェクトが、実教出版株式会社発行の高等学校「公共」用資料集『2026 ズームアップ公共資料 新訂版』に掲載され、学習教材として活用されたことをお知らせします。

掲載の背景

本資料集では、「キャリアと社会参加」を主題としたページにおいて、川越研究室の取り組みが「伝統継承を通じた若い世代の社会参加」の事例として紹介されています。

国の重要無形文化財である「江戸小紋」の職人不足という課題に対し、学生たちは過去の図案から、これまで言語化・マニュアル化されていなかったデザイン理論の抽出を試みました。その過程で学生が目指したのは、職人が直感的に図案イメージを具現化できるツールの開発です。継承が難しい図案配置を自動化するアルゴリズムを構築する際も、「職人にツールとして使いこなしてほしい」という思いからプログラム化を行いました。

このように、先端技術と伝統を融合させ、実際の製品化に向けて試作品づくり挑戦したプロセスが、評価されました。今後は、生成 AI 関連技術を活用した「職人を支えるサポート技術」について、さらに研究を深めていく予定です。

掲載資料集の概要

- 書名: 高等学校「公共」資料集『2026 ズームアップ公共資料 新訂版』
- 発行所: 実教出版株式会社
- 発行部数: 10万部
- ISBN: 978-4-407-36792-8

文京学院大学 川越研究室の取り組みと担当教員コメント

川越研究室では、デザイン・歴史・グローバルを軸に、歴史を活かした商品開発や老舗企業のブランディングを行っています。平素よりものづくりに取り組む企業や行政と連携し、社会課題の解決に向け活動しています。

努力して歴史を継承してきた企業や産業のサポートをし、遺産を活かして現代へと変革させるために日々研究に取り組んでいます。

【担当教員コメント】



今回の資料集掲載は、学生たちが伝統工芸という一見遠い存在に感じられる社会課題に対し、自分たちの得意なデジタルツールを武器に当事者として向き合ってきた成果だと感じています。

伝統の継承が大きな課題となっている今、AI やアプリといった新しいアプローチは、若い世代が文化を自分事として捉え、参画するための強力な架け橋となります。今後も生成 AI などの最新技術を取り入れながら、伝統を守るだけでなく、新たな価値を創造する『社会参加』の形を研究していきたいと考えています。

9 地域の伝統を守るために



↑江戸小紋の図案を検討する文京学院大学の学生たち。どのような柄をどう配置すればよいか、試行錯誤を繰り返す。

江戸時代に誕生し、現在も着物愛好家の間で知られている江戸小紋。小さな柄を一色で染める美しさで、国の重要無形文化財に認定されている歴史ある伝統工芸品です。近年は図案を作る職人の数が激減し、継承の難しさが指摘されています。この状況を打破したいと、新たな図案技術の開発に取り組む大学があります。

川越(仁恵)教授は2022年から、江戸小紋の図案作りの工程を効率化する技術の研究に、ゼミ生たちと一緒に取り組んでいます。……江戸小紋の柄は線ではなく、点で表現されます。ゼミ生たちはスマートフォンのイラスト作成アプリを使い、モチーフを作りました。……今後、研究室では生成AI関連の技術を活用して、江戸小紋図案のサポート技術を研究していく予定です。

【朝日新聞 Think キャンパス 2024年5月29日を一部改】

解説 伝統継承を通じた社会参加 少子高齢化の進行や地方の過疎化、人口減少にともない、衣食住、祭礼、芸能、農作業、工芸技術など伝統文化の継承が大きな課題となっている。子育て世代の転出により、世代間のつながりが断たれ、後継者は不足しており、子どもや若者の不在は伝統文化を担う地域社会の弱体化を招いている。伝統継承を通じた若い世代の社会参加に寄せられる期待は大きい。